

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 中心市街地の活性化の目標

高知市中心市街地活性化の基本的な方針を踏まえ、以下の3つの目標を定める。

目標①「すべての世代が永く住み続けられるまち」の実現

すべての世代が永く住み続けられるまちを実現するために、共同住宅の整備、都市公園のリニューアルやシンボルツリー植栽による憩いの空間の創出、無電柱化や美化活動による居住環境の向上、安心・安全のまちづくり施策等に取り組むことで、前計画の施策効果により増加し始めた居住人口を確保する。

中心市街地の居住人口の割合が高まることで、市全体の賑わいや活力を創出する拠点としての機能が強化され、コンパクトシティの形成を図るものとする。

目標②「多くの人々が回遊するまち」の実現

前計画の施策効果により歩行者通行量は増加傾向にあるが、エリア別では偏在化が見られるため、中心市街地全体の歩行者通行量を増加させ、多くの人々が回遊するまちを実現させる。そのために、高知大丸のリニューアルや空き店舗対策による店舗の魅力向上、レンタサイクルを導入や外国人観光客の受入おもてなしの充実による回遊性向上、情報発信、商店街等でのイベント事業による賑わい創出等の施策に取り組み、中心市街地全体に賑わいの効果を広める。

目標③「また訪れたいと思うまち」の実現

来街者の増加を好機ととらえ、一過性で終わらせるのではなく、一度訪れた来街者がまた訪れたいと思うまちを実現するために、来街の誘導が期待できる中心市街地の拠点施設における活性化事業、拠点施設と商店街の連携事業及び相互の情報発信事業、高知文化に根づく「おきやく」「おもてなし」施策等に取り組む、中心市街地の交流人口の拡大を図る。

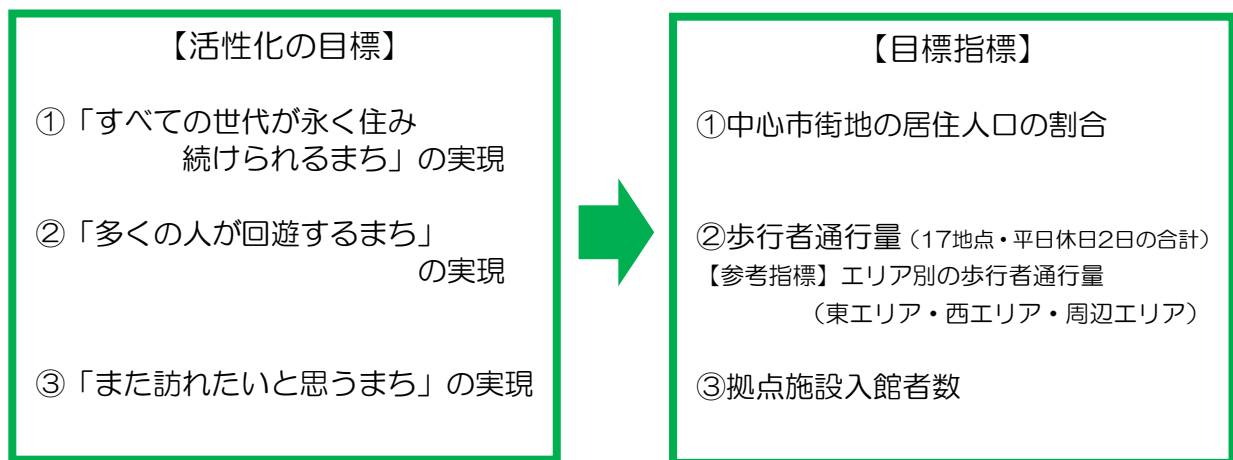
[2] 計画期間

本基本計画の計画期間は、平成30年4月から事業の推進及び完了による活性化効果が見込まれる令和5年3月までの5年間とする。

[3] 目標指標の設定

本計画は、前計画の進捗や社会情勢の変化等から生じた、中心市街地の新たな課題を解決し、引き続き中心市街地全体の活性化を図っていく。

中心市街地の将来像を「地域資源の魅力が織り成す、『暮らし』と『交流』の調和したまち」とし、新しいまちの実現を目指す目標の達成状況を的確に把握できるよう、以下の3つの目標指標を設定し、その考え方を示す。また、目標指標を補完する参考指標も設定する。



①「すべての世代が永く住み続けられるまちの実現」に関する目標指標

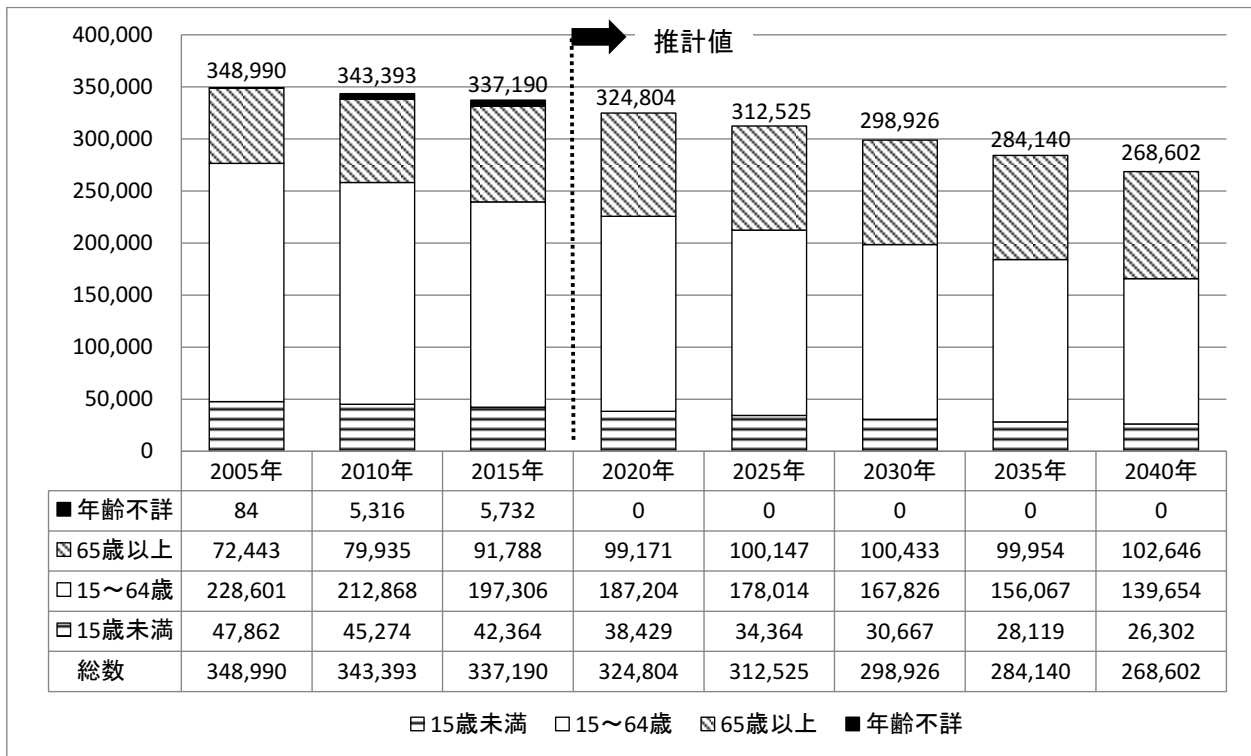
前計画における目標①「新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる」の指標である「中心市街地の居住人口」については、主要である「セントラルレジデンス高知中央公園」や「帯屋町チェントロ」等民間共同住宅の整備事業の完了により、平成26年度を底に中心市街地の居住人口は増加に転じている。

一方、高知市全体の人口は2005（平成17）年にピークを迎えた後は減少傾向にあり、今後も加速度的に進むことが予測されている。なかでも、中心部の人口減少は特にその傾向が大きくなると予測されている。

増加に転じた中心市街地の居住人口を確保し、市全体に対する中心市街地の居住人口の割合を高めることでコンパクトシティの形成をすすめていくという観点から、市全体に占める中心市街地の居住の集積状況を測る必要があるため、目標①「『すべての世代が永く住み続けられるまち』の実現」に関する目標指標を「中心市街地の居住人口の割合」とする。目標達成のため、民間による共同住宅の整備を実施することにより、居住人口の増加を促す。

また、都市公園のリニューアルやシンボルツリー植栽による憩いの空間の創出、無電柱化や区域内の美化活動による居住環境の向上、安心・安全のまちづくり施策等に取り組む。

■ 高知市の将来人口推計



(2005年～2015年：国勢調査(総務省) 2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』)

② 「多くの人々が回遊するまちの実現」に関する目標指標

前計画での目標②「街なかの回遊性を向上させる」の指標である「歩行者通行量」は、帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業(帯屋町チェントロ)等、前計画の進捗に伴い、増加傾向にあり、平成28年度は平成23年度の基準値103,249人と比較して1,402人増加の104,651人となった。主要事業の一つである高知城歴史博物館が開館したことにより今後も歩行者通行量が増加すると見込まれ、最終的には目標達成されると思われる。

しかし、全体の歩行者通行量は増加したものの、エリア別で見ると、中心部では中央公園をはさんで西側エリアが増加したのに対し、東側エリアは減少している。また、中心部をはさんだ東西の商店街も歩行者通行量が減少している。

このようなエリア別の偏在化が見られる現状を鑑みて、中心市街地エリアにおいて来街者の回遊を促進させるため、本計画の目標②「『多くの人々が回遊するまち』の実現」に関する目標指標として引き続き「歩行者通行量」を設定する。歩行者通行量は中心市街地への人の入込を測る指標として適切であり、前計画と同じ目標指標となるが、より詳細な回遊性の動向を測るために、従来の14地点に加え東エリアに調査地点を3地点追加し、全17地点の調査とする。なお、本調査は高知県商店街振興組合連合会と本市により経年的に実施していることから、定期的かつ継続的なフォローアップが可能である。

目標達成のため、魅力ある機能をエリア全体に展開し、各機能が連携できるような取組をすすめる。具体的には空き店舗対策や高知大丸のリニューアルによる出店促進及び商店街の魅力向上、レンタサイクルの導入、外国人観光客の受入おもてなしの充実、商店街の情報発信やイベント等に取り組む。

③「また訪れたいと思うまちの実現」に関する目標指標

前計画の主要事業である高知城歴史博物館の開館により、中心市街地に新たな賑わいが生まれている。また、前計画の計画期間内には完了に至らなかった新図書館等複合施設オーテピアも、平成30年7月に開館を控えており、高知市内外からの来街者の増加が見込まれている。このほか、ビザ緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充などにより、訪日外国人旅行者が増加傾向にあるとともに、クルーズ客船の寄港増加など、外国人観光客の増加も予測されている。

今後も増加すると見込まれる国内外からの観光客等の来街者に対し、受入態勢を充実させることで来街者の増加及び観光客の再訪を促し、交流人口の拡大を図るため、目標③「『また訪れたいと思うまち』の実現」に関する目標指標を「拠点施設の入館者数」に設定する。

拠点施設は①オーテピア（新図書館等複合施設）②高知城歴史博物館③高知よさこい情報交流館④高知市文化プラザ「かるぽーと」の4施設とする。これらの施設は、多世代が利用する施設、観光客が訪れる施設、何度でも訪れたい施設等、来街者が中心市街地の多彩な魅力を楽しむことができる施設であり、観光・歴史・文化・教育等の各分野に渡っていることから、目標指標の測定対象として適切であると考えられる。

目標達成のため、来街の誘導が期待できる中心市街地の拠点施設における活性化事業、拠点施設と商店街の連携事業及び相互の情報発信事業、高知文化に根づく「おきやく」「おもてなし」施策等に取り組んでいく。

[4] 数値目標の設定

(1) 目標1: 「『すべての世代が長く住み続けられるまち』の実現」に関する数値目標
 ○評価指標1: 中心市街地の居住人口の割合

居住人口はまちなか居住の状況を端的に把握できる目標指標であるが、コンパクトシティの形成をすすめていくという観点から、市全体に占める中心市街地の居住の集積状況を測る必要があるため、「中心市街地の居住人口の割合」を目標指標に設定する。

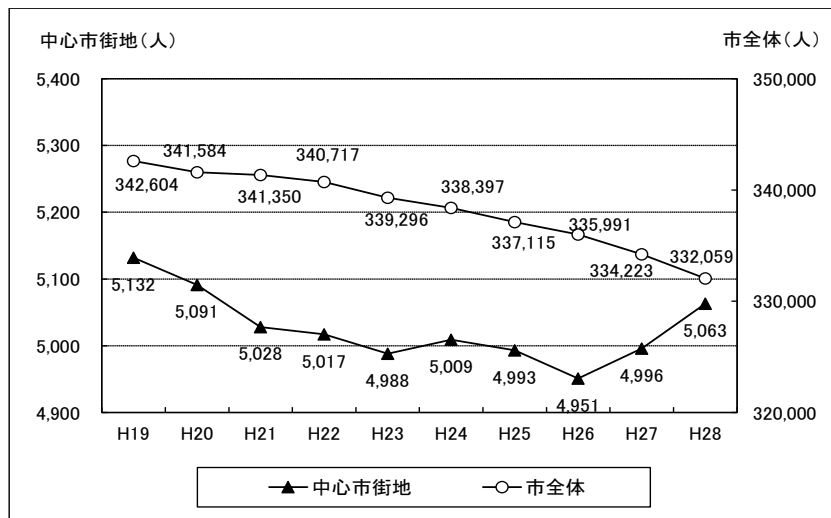


1) 基準値の設定

基準値は、最新実測値（H28年度）を設定する。

- ・ H28年度の中心市街地の人口 5,063人
- ・ H28年度の市全体の人口 332,059人
- ・ 中心市街地の居住人口の割合 $5,063 \div 332,059 = 1.52\%$

基準値 平成28年度 1.52%

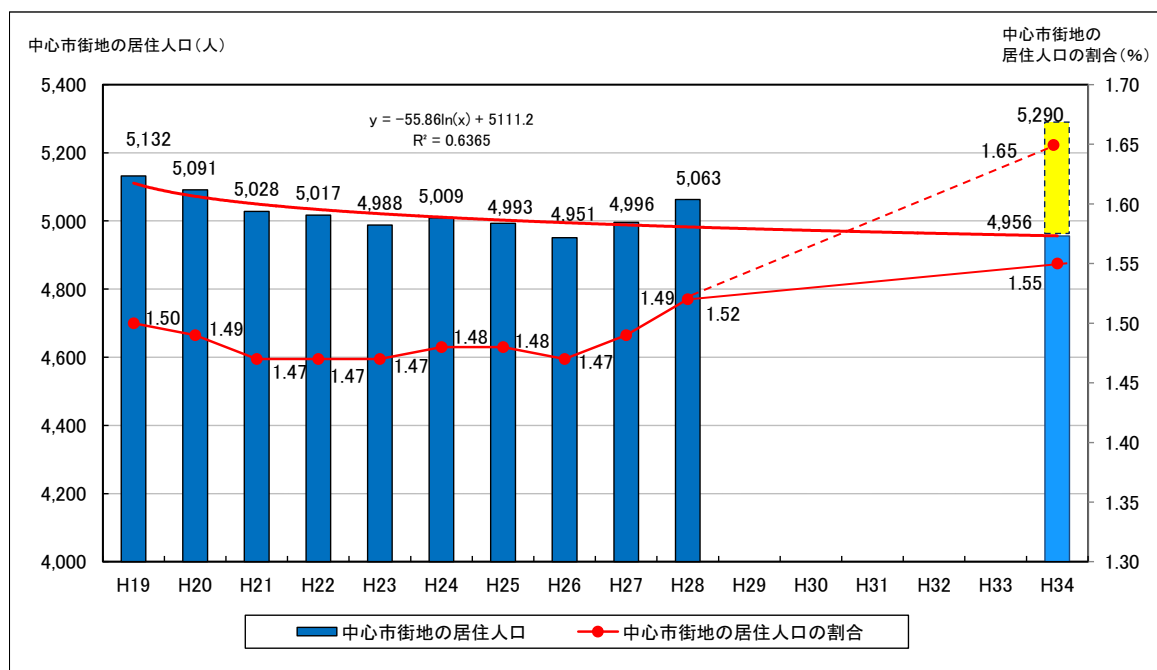


■ 中心市街地の人口の推移

2) 数値目標の設定

積算項目	数値
①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値	-107人
②（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業により見込まれる居住者の増加	+82人
③「クリアホームズ高知駅前 ザ・レジデンス」整備事業により見込まれる居住者の増加	+89人
④「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業により見込まれる居住者の増加	+68人
⑤「クリアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業により見込まれる居住者の増加	+61人
⑥移住・定住促進事業による人口の社会増	+34人
合計	+227人

3) 数値目標の設定根拠



① 新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値

「国立社会保障・人口問題研究所」の推計から平成29年度の市全体の人口は330,246人、令和4年度は319,892人となり、平成29年度から令和4年度の5年間で3.1%（10,354人）減少すると見込まれる。

中心市街地において新計画による新たな活性化の取組が行われない場合の令和4年度推計値は、現行水準のままで推移すると考えられるため、前計画期間中の実績値からの推計値(※)4,956人とする。(※推計値は、近似式により推計した数値 $y = -55.86\ln(x) + 5111.2$ $R^2 = 0.6365$)

新計画では、民間事業者による新たな共同住宅の整備や子育て支援サービスの充実等が見込まれており、街なか居住の推進による効果が期待できる。

居住者の増加見込数は、住宅の供給戸数に「中心市街地における一世帯あたりの平均居住人数」を乗じた数とする。

② (仮称) 帯屋町一丁目地区複合施設整備事業により見込まれる居住者の増加

- ・供給戸数 51戸
- 1.62人×51戸=82人

③ 「クリアホームズ高知駅前 ザ・レジデンス」整備事業により見込まれる居住者の増加

- ・供給戸数 55戸
- 1.62人×55戸=89人

④ 「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業により見込まれる居住者の増加

- ・供給戸数 42戸
- 1.62人×42戸=68人

⑤ 「クリアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業により見込まれる居住者の増加

・供給戸数 38戸

1.62人×38戸=61人

⑥ 移住・定住促進事業により見込まれる人口の社会増

・県外からの移住組数 200組

うち、中心市街地に居住する世帯

200世帯×1.92% (※) = 3.8世帯 ※市全体に対する中心市街地の世帯数の割合

3.8世帯×1.83人 (※) ×5年=34人 ※移住1世帯あたりの平均居住人数 (H28年度実績)

②～⑥の効果により334人増加すると見込まれる。

①のトレンドに②～⑥の効果を加算し、令和4年度の中心市街地の人口は $5,063 - 107 + 334 = 5,290$ 人となり、市全体の人口319,892人に対する割合は $5,290人 / 319,892人 = 1.65\%$ となる。

≪その他街なか居住を推進する新たな取組≫

○丸ノ内緑地整備事業

高知城に隣接する丸ノ内緑地は、開設後再整備していないため老朽化しており、安心・安全のため長寿命化対策を行うとともに、高知城や高知城歴史博物館に近接している立地を活かし、市民や観光客の憩いの場及び歴史・文化系のイベントスペースとしても活用できるようなリノベーションについて検討及び実施するもの。

○地域子育て支援拠点事業

中心市街地に官民連携により子育て支援拠点施設を新たに整備することで、親子のふれあいの場を提供するとともに、育児相談、育児講座等を開催し、来街のきっかけづくりや子育て家庭と地域の交流を図る。

そのほか、みどり豊かなまちづくり事業、シンボルツリー植栽事業、藤並公園整備事業、横堀公園整備事業の実施により憩いの空間を創出し、居住環境の向上を目指す。また、まちなか市民健康づくり事業、環境美化事業、クールチョイス事業、タウンモビリティ事業等を商店街やNPO等と連携して取り組んでいく。これにより、快適に暮らせる安心・安全のまちづくりと街なか居住のさらなる推進を図っていく。

4) フォローアップの考え方

中心市街地の居住者数は高知市全体の居住者数と併せ、毎年住民基本台帳による集計を行い、目標達成の進捗を確認する。また、必要に応じて年代別居住者数や定着率等の動向も考慮し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

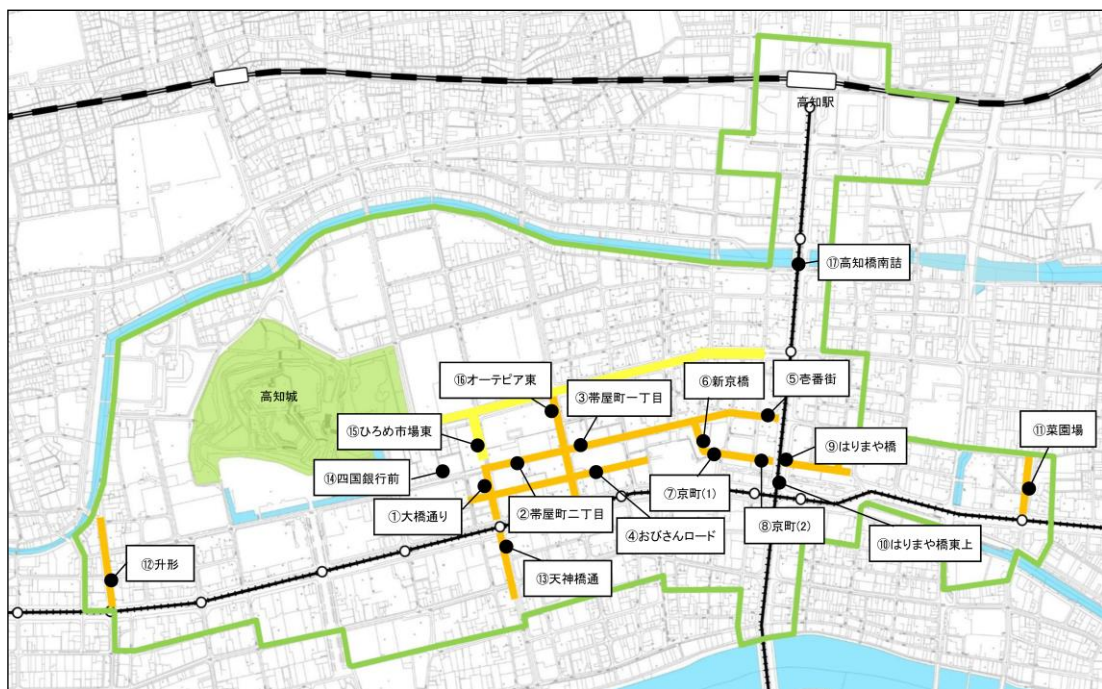
なお、目標年の令和4年度の数値についても、その結果を踏まえて検証を行うものとする。

(2) 目標2：「『多くの人が回遊するまち』の実現」に関する数値目標
 ○評価指標2：歩行者通行量（17地点・冬季・平日休日2日の合計）



前計画では、歩行者通行量の目標を冬季の休日と平日の2日間で各14地点での調査を実施していた。新計画においても歩行者通行量を目標指標に設定するが、より詳細な回遊性の動向を測るために、東エリアの調査地点を3地点追加し17地点とする。なお、当該調査地点は高知県商店街振興組合連合会と高知市が経年的に調査している地点であり、定期的かつ継続的なフォローアップが可能であるため、目標指標に適切であると考えます。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	
	大橋通り	帯屋町二丁目	帯屋町一丁目	おびさんロード	巻番街	新京橋	京町(1)	京町(2)	はりまや橋	はりまや橋東上	菜園場	升形	天神橋通	四国銀行前	ひろめ市場東	オーテピア東	高知橋南詰	合計
H28	14,250	17,270	18,717	5,352	7,854	5,700	5,940	6,561	5,460	3,156	462	873	4,473	5,459	9,739	4,785	3,396	119,447



■ 歩行者通行量 (H28)

1) 基準値の設定

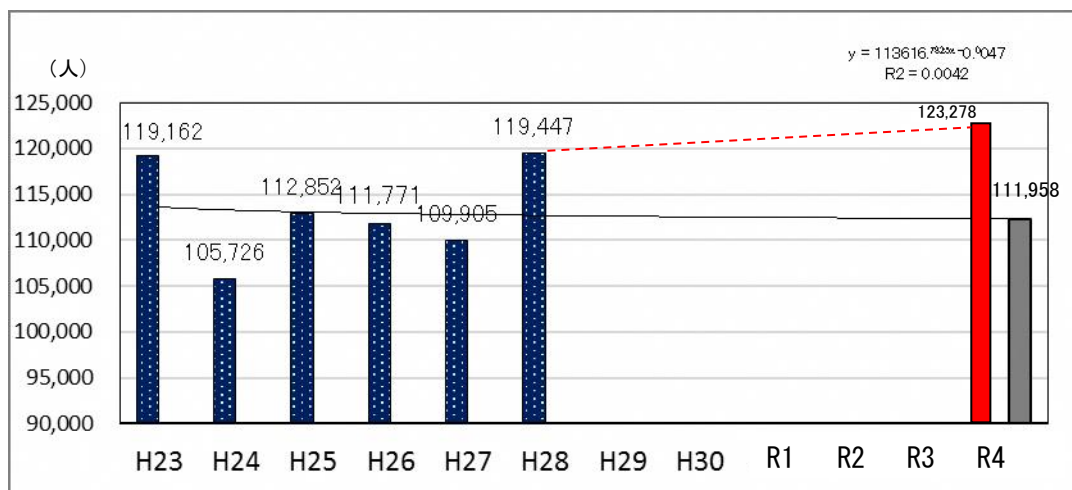
- ・基準値は最新実測値（H28年度 119,447人）を用いる。

基準値 平成28年度 119,447人

2) 数値目標の設定

積算項目	数値
①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値	-7,489人
②オーテピアにおけるソフト事業等による増加	+7,066人
③高知大丸リニューアル事業による増加	+1,733人
④高知城歴史博物館ソフト事業による増加	+1,282人
⑤(仮称)帯屋町一丁目地区複合施設整備事業による増加	+164人
⑥街なか空間有効活用事業による増加	+360人
⑦レンタサイクル事業による増加	+175人
⑧学生活動交流館事業、学生と商店街の連携事業による増加	+160人
⑨「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業による増加	+136人
⑩「クリアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業による増加	+122人
⑪まんがイベント事業、芸術文化振興事業による増加	+104人
⑫高知よさこい情報交流館運営事業による増加	+18人
合計	+3,831人

3) 数値目標の設定根拠



■ 歩行者通行量の推移

①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値

中心市街地において新計画による新たな活性化の取組が行われなかった場合の令和4年度推計値は、現行水準のままで推移すると考えられるため、前計画期間中の実績値からの推計値(※) 111,958人とする。(※推計値は、近似式により推計した数値 $y = 113616.7825x - 0.0047$ $R^2 = 0.0042$)

②オーテピアにおけるソフト事業等による増加

平成30年7月に開館予定の新図書館等複合施設オーテピアの入館者数は、年間で100万人と見込まれている。高知県立図書館の開館日数と高知市立市民図書館の開館日数の平均値283日を開館想定日数とする。

1日あたりの入館者数 $1,000,000人 \div 283日 \approx 3,533人$

平日・休日の利用者数を同じと仮定すると、平日・休日2日間の利用者数は7,066人となる。
 新計画では「オーテピアにおけるソフト事業」が実施されるほか商店街イベント事業など、
 賑わい創出のための事業が実施される。

オーテピアは商店街や日曜市にも近接しているため、オーテピアを訪れた人が図書館の利用
 だけにとどまらず、買い物やイベント等で回遊すると見込まれる。

オーテピア利用者のうち半数の人が商店街等に移動し、2か所を回遊すると仮定

$$7,066人 \div 2 \times 2か所 = \underline{7,066人増加}$$

③高知大丸リニューアル事業による増加

高知大丸リニューアル事業は、建設後30年近くが経過した高知大丸東館の全面改装を行
 うもので、従来の百貨店機能に加え、集えるスペース整備など交流人口の拡大を図る取組の
 ほか、商店街と連携したポイントカードを導入することにより商店街の活性化を図る。

リニューアル事業の効果により、高知大丸に近接した周辺商店街等（※）の歩行者通行
 量が5%増加すると見込むこととする。

（※）周辺商店街等：壱番街商店街、京町商店街、新京橋商店街、はりまや橋商店街、はりまや橋東上など6地点

[高知大丸リニューアルに伴う周辺商店街等の歩行者通行量算出]

・最新実測値（平成28年） 34,671人

	壱番街 商店街	新京橋 商店街	京町 商店街 (片桐ビル前)	京町 商店街 (野村證券前)	はりまや 橋商店街	はりまや 橋東上	合計
平日・休日 合計（人）	7,854	5,700	6,561	5,940	5,460	3,156	34,671

・34,671人×5%増加=36,404人 36,404人－34,671人= 1,733人増加

④高知城歴史博物館ソフト事業による増加

平成29年3月に開館した高知城歴史博物館は中心市街地の新たな観光スポットとして県内
 外から多くの人を訪れている。

令和4年の入館者数を200,000人と見込んでおり、休館日を週1日程度として年間開館日数を
 312日と仮定する。

1日あたりの入館者数 200,000人÷312日≒641人

平日・休日の利用者数を同じと仮定すると、平日・休日2日間の利用者数は1,282人となる。

新計画では日曜市や商店街と連携した「高知城歴史博物館ソフト事業」が実施されるほか、
 オーテピアと同じく高知城歴史博物館も商店街や日曜市に近接しているため、博物館を訪れ
 た人が商店街等を回遊すると見込まれる。

博物館利用者のうち半数の人が商店街等に移動し、2か所を回遊すると仮定

$$1,282人 \div 2 \times 2か所 = \underline{1,282人増加}$$

⑤（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業による増加

（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業は商業店舗や子育て支援施設等と共同住宅と
 の複合施設を整備する事業である。おびさんロード商店街内に立地しており、居住者は買い

物等で商店街を回遊すると見込まれる。

- ・（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業の居住者数（見込）

供給戸数 51戸 1.62人（※）×51戸=82人

（※）中心市街地における一世帯あたりの平均居住人数

居住者のうち半数の人が買い物等で回遊すると仮定

$82人 \div 2 \times 2$ （往復）×2日（平日・休日）=164人増加

⑥街なか空間有効活用事業による増加

はりまや橋商店街では、商店街内の広場を活用した「木々くらぶ」や商店街内で「100円商店街」「はりまや金曜日」などのイベントを行っている。また、壱番街商店街でも若者によるダンスコンテスト「ストリートダンス」や産直市である「おかみさん市」などが開催されている。街なかの空間を活用したこれらの事業をブラッシュアップし、新計画においても新たな活用策を展開させることにより、さらなる賑わいの創出を図る。

平成29年度時点での誘客数

- ・木々くらぶ、はりまや市による誘客 700人
- ・ストリートダンス、おかみさん市による誘客 500人

新計画では、新たな街なか空間の有効活用施策を展開し、歩行者通行量を10%増加させ、中心市街地を3か所程度回遊すると見込む。

$(700+500)$ 人×10%×3か所=360人増加

⑦レンタサイクル事業による増加

複数のサイクルポートで乗り降りできるレンタサイクルを導入し、まちなか利用や観光客が中心市街地内を快適・便利に回遊できる仕組みをつくる。

平日は75人程度の利用を目指し、先例の実績等から休日は平日の約2.1倍の利用が見込めるため、 $75 \times 2.1 \div 2 = 158$ 人の利用を目指す。

利用者のうち25%の人が中心市街地を3か所程度回遊すると仮定

$(75+158)$ 人×25%×3か所=175人増加

⑧学生活動交流館事業、学生と商店街の連携事業による増加

京町商店街にある学生活動交流館を拠点とした、学生によるイベント・展示・実習活動など活性化の取組をすすめることにより、歩行者通行量160人増加を見込む。

⑨「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業による増加

「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業は、はりまや町において共同住宅を整備する事業である。はりまや橋商店街に近接しており、居住者は買い物等で商店街を回遊すると見込まれる。

- ・「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業の居住者数（見込）

供給戸数 42戸 1.62人（※）×42戸=68人

（※）中心市街地における一世帯あたりの平均居住人数

居住者のうち半数の人が買い物等で回遊すると仮定

$68人 \div 2 \times 2$ （往復）×2日（平日・休日）=136人増加

⑩「クレアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業による増加

「クレアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業は、升形地区において共同住宅を整備する事業である。升形商店街内に立地しており、居住者は買い物等で商店街を回遊すると見込まれる。

- ・「クレアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業の居住者数（見込）

供給戸数 38戸 1.62人（※）×38戸=61人

（※）中心市街地における一世帯あたりの平均居住人数

居住者のうち半数の人が買い物等で回遊すると仮定

61人÷2×2（往復）×2日（平日・休日）=122人増加

⑪まんがイベント事業、芸術文化振興事業による増加

まんがイベント時に商店街と連携した取組の充実や芸術文化振興事業の実施により、かろぽーと利用者のうち半数の人が商店街に移動し、2か所程度を回遊すると見込む。

16,302人÷312日（想定開館日数）=52人

52÷2×2か所×2日=104人

⑫高知よさこい情報交流館運営事業による増加

全国に広まった高知のよさこい祭りの情報発信や祭り期間以外でも演舞披露等を行っており、今後は情報発信機能のさらなる充実、よさこい鳴子作り体験等のワークショップ開催、館内案内の多言語アプリの充実、地元商店街との連携した取組により、外国人観光客を含む中心市街地への来街者増加を図る。

よさこい情報交流館の入館者のうち半数の人が商店街に移動し、2か所程度を回遊すると見込む。

2,942人（※）÷312日（想定開館日数）=9人

（※）高知よさこい情報交流館運営事業による入館者増加見込数

9÷2×2か所×2日=18人

②～⑫の効果により11,320人増加すると見込まれる。

以上、②～⑫の事業実施による効果を、①のトレンド数値に加算すると、

119,447人－7,489人＋11,320人=123,278人 となる。

《その他中心市街地内全体の回遊性を総合的に向上させる新たな取組》

○創業支援情報発信事業

新規創業を予定している事業者に対し、空き店舗情報や創業支援制度、出店可能なイベント情報等を集約しホームページ等で広く情報発信することで中心市街地内での創業を促し、新たな賑わいの創出につなげる。

○外国人観光客の受入おもてなし事業

行政と商店街・民間・学生等と連携し、増加するクルーズ客船等の外国人観光客のまちなか観光拡大に向け、観光案内、多言語マップの配布、サインや表示の多言語化、日本文化を体験できるミニイベントの実施等のほか、学生ボランティアによる情報発信や市内物産品を活用した観光消費拡大等の新たな取組により、楽しく快適に過ごせる中心市街地づくりを目指し、来

街及び再訪を促す。

○中心市街地インバウンド対策事業

商店街と連携し、歴史・観光・文化・商店街・食等の中心市街地の魅力をPRするなど、外国人観光客を中心市街地へ誘客する取組により、インバウンド消費の拡大や商店街の活性化を図る。

○観光案内所整備事業

観光客が多く立ち寄る中心商店街に外国語対応可能な観光案内所を新たに設置し、あわせて看板やパンフレットの多言語化、観光情報の提供等を行うことで外国人観光客の誘客促進を図る。

そのほか、タウンモビリティ事業、日曜日と商店街の回遊促進事業、「土佐っ歩」事業、商店街イベント事業、「食のイベント」事業、「高知まちゼミ」事業等を実施する。これらの事業を商店街と連携して取り組むことにより、エリア全体における歩行者通行量の底上げを目指す。

4) フォローアップの考え方

現在実施している「商店街歩行者通行量調査」を活用し、毎年調査・集計を行い、目標達成進捗を確認するとともに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

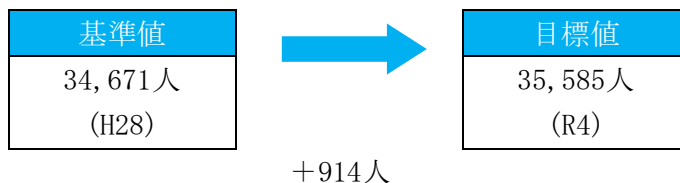
なお、歩行者通行量は天候により測定値が左右されるため、予備日を設定するなど、同条件で測定できるように留意する。

目標年である令和4年度の数値についても、調査結果を踏まえて検証を行うものとする。

○参考指標：エリア別の歩行者通行量

前計画で課題が明らかとなった調査地点による歩行者通行量の偏在化について継続してフォローアップしていくため、エリア別の歩行者通行量を参考指標として設定する。

参考指標1：東エリアの歩行者通行量（6地点・冬季・平日休日2日の合計）



1) 基準値の設定

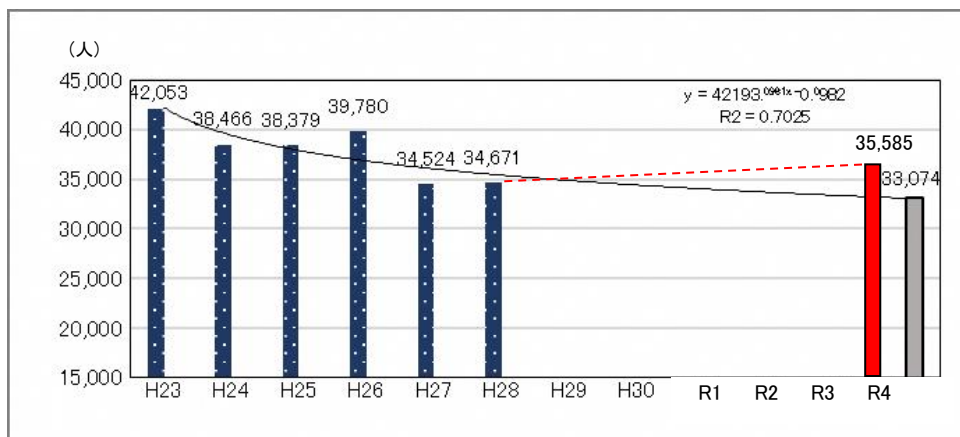
- ・基準値は最新実測値（H28年度 34,671人）を用いる。

基準値 平成28年度 34,671人

2) 数値目標の設定

積算項目	数値
①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値	-1,597人
②高知大丸リニューアル事業による増加	+1,733人
③街なか空間有効活用事業による増加	+360人
④学生活動交流館事業、学生と商店街の連携事業による増加	+160人
⑤「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業による増加	+136人
⑥まんがイベント事業、芸術文化振興事業による増加	+104人
⑦高知よさこい情報交流館運営事業による増加	+18人
合計	+914人

3) 数値目標の設定根拠



①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値

中心市街地において、新計画による新たな活性化の取組が行われない場合の令和4年度推計値は、現行水準のままで推移すると考えられるため、前計画期間中の実績値からの推計値33,074人とする。

②高知大丸リニューアル事業による増加

リニューアル事業の効果により、高知大丸に近接した周辺商店街等（※）の歩行者通行量が5%増加すると見込むこととする。（※詳細は p 70参照）

- ・ 34,671人×5%増加=36,404人
- 36,404人－34,671人=1,733人増加

③街なか空間有効活用事業による増加

新たな街なか空間の有効活用施策を展開し、歩行者通行量を10%増加させ、中心市街地を3か所程度回遊すると見込む。（※詳細は p 71参照）

- ・ (700+500) 人×10%×3か所=360人増加

④学生活動交流館事業、学生と商店街の連携事業による増加

京町商店街にある学生活動交流館を拠点とした、学生によるイベント・展示・実習活動など活性化の取組をすすめることにより、歩行者通行量160人増加を見込む。

⑤「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業による増加

居住者のうち半数の人が買い物等で回遊すると仮定

$$68人 \div 2 \times 2 \text{ (往復)} \times 2 \text{ 日 (平日・休日)} = \underline{136人増加}$$

（※詳細は p 72参照）

⑥まんがイベント事業、芸術文化振興事業による増加

まんがイベント時に商店街と連携した取組の充実や芸術文化振興事業の実施により、かろぼーと利用者のうち半数の人が商店街に移動し、2か所程度を回遊すると見込む。

$$16,302人 \div 312 \text{ 日 (想定開館日数)} = 52人$$

$$52 \div 2 \times 2 \text{ か所} \times 2 \text{ 日} = \underline{104人}$$

⑦高知よさこい情報交流館運営事業による増加

高知よさこい情報交流館での活性化事業の取組により、よさこい情報交流館の入館者のうち半数の人が商店街に移動、2か所程度を回遊し、歩行者通行量18人増加を見込む。

（※詳細は p 73参照）

②～⑦の効果により2,511人増加と見込まれる。

以上、②～⑦の事業実施による効果を、①のトレンド数値に加算すると、

$$34,671人 - 1,597人 + 2,511人 = \underline{35,585人} \text{ となる。}$$

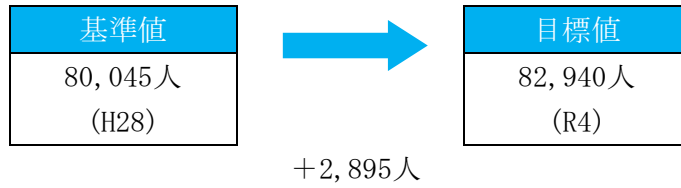
4) フォローアップの考え方

目標達成の直接の評価対象ではないが、参考指標についてもフォローアップしていくこととする。

現在実施している「商店街歩行者通行量調査」を活用し、毎年調査・集計を行い、目標達成進捗を確認するとともに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

なお、目標年の令和4年度の数値についても、その結果を踏まえて検証を行うものとする。

参考指標2：西エリアの歩行者通行量（8地点・冬季・平日休日2日の合計）



1) 基準値の設定

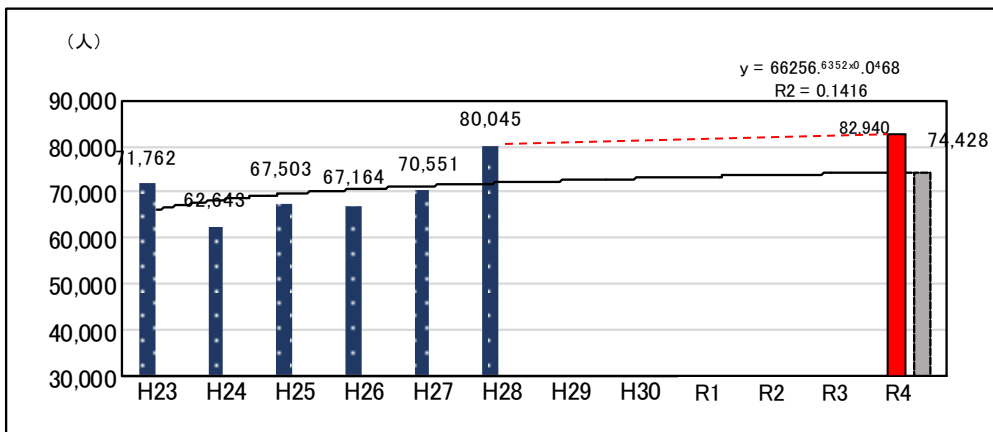
- ・基準値は最新実測値（H28年度 80,045人）を用いる。

基準値 平成28年度 80,045人

2) 数値目標の設定

積算項目	数値
①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値	-5,617人
②オーテピアにおけるソフト事業による増加	+7,066人
③高知城歴史博物館ソフト事業による増加	+1,282人
④（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業による増加	+164人
合計	+2,895人

3) 数値目標の設定根拠



①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値

中心市街地において新計画による新たな活性化の取組が行われない場合の令和4年度推計値は、現行水準のままで推移すると考えられるため、前計画期間中の実績値からの推計値74,428人とする。

②オーテピアにおけるソフト事業による増加

オーテピア利用者のうち半数の人が商店街等に移動し、2か所を回遊すると仮定

$$7,066人 \div 2 \times 2 \text{か所} = \underline{7,066人 \text{増加}}$$

(※詳細は p 70参照)

③高知城歴史博物館ソフト事業による増加

博物館利用者のうち半数の人が商店街等に移動し、2か所を回遊すると仮定

$$1,282人 \div 2 \times 2 \text{か所} = \underline{1,282人 \text{増加}}$$

(※詳細は p 71参照)

④(仮称) 帯屋町一丁目地区複合施設整備事業による増加

居住者のうち半数の人が買い物等で回遊すると仮定

$$82人 \div 2 \times 2 \text{(往復)} \times 2 \text{日(平日・休日)} = \underline{164人 \text{増加}}$$

(※詳細は p 71参照)

②～④の効果により8,512人増加すると見込まれる。

以上、②～④の事業実施による効果を、①のトレンド数値に加算すると、

$$80,045人 - 5,617人 + 8,512人 = \underline{82,940人} \text{ となる。}$$

4) フォローアップの考え方

目標達成の直接の評価対象ではないが、参考指標についてもフォローアップしていくこととする。

現在実施している「商店街歩行者通行量調査」を活用し、毎年調査・集計を行い、目標達成進捗を確認するとともに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

なお、目標年の令和4年度の数値についても、その結果を踏まえて検証を行うものとする。

参考指標3：周辺エリアの歩行者通行量（3地点・冬季・平日休日2日の合計）



1) 基準値の設定

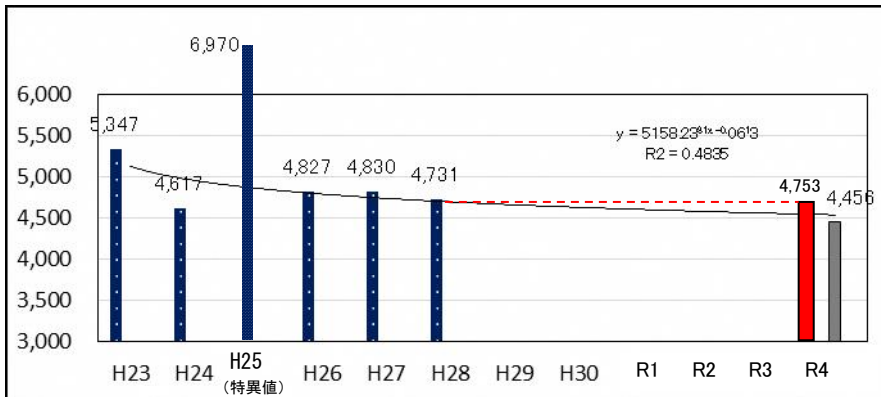
- ・基準値は最新実測値（H28年度 4,731人）を用いる。

基準値 平成28年度 4,731人

2) 数値目標の設定

積算項目	数値
①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値	-275人
②レンタサイクル事業による増加	+175人
③「クリアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業による増加	+122人
合計	+22人

3) 数値目標の設定根拠



①新計画において新規施策実施がない場合の令和4年度推計値

中心市街地において新計画による新たな活性化の取組が行われない場合の令和4年度推計値は、現行水準のままで推移すると考えられるため、前計画期間中の実績値からの推計値4,456人とする。

②レンタサイクル事業による増加

レンタサイクル利用者のうち25%の人が中心市街地を3か所程度回遊すると仮定

$$(75 + 158) \text{ 人} \times 25\% \times 3 \text{ か所} = \underline{175 \text{ 人増加}}$$

(※詳細は p 72 参照)

③「クレアホームズ升形 ザ・レジデンス」整備事業による増加

居住者のうち半数の人が買い物等で回遊すると仮定

$$61人 \div 2 \times 2 \text{ (往復)} \times 2 \text{日 (平日・休日)} = \underline{122人増加}$$

(※詳細は p 72 参照)

②～③の効果により 297人増加 すると見込まれる。

以上、②～③の事業実施による効果を、①のトレンド数値に加算すると、

$$34,671人 - 275人 + 297人 = \underline{4,753人} \text{ となる。}$$

4) フォローアップの考え方

目標達成の直接の評価対象ではないが、参考指標についてもフォローアップしていくこととする。

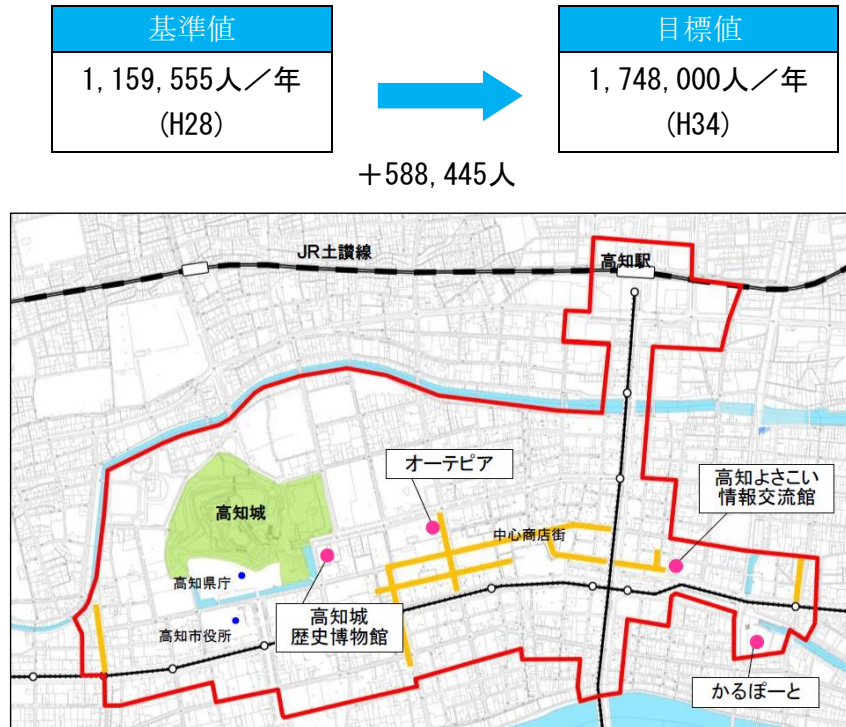
現在実施している「商店街歩行者通行量調査」を活用し、毎年調査・集計を行い、目標達成進捗を確認するとともに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。

なお、目標年の令和4年度の数値についても、その結果を踏まえて検証を行うものとする。

(3) 目標3: 「『また訪れたいと思うまち』の実現」に関する数値目標

○評価指標3: 拠点施設入館者数

中心市街地への来街者の再訪を測る目標指標として「拠点施設の入館者数」を設定する。拠点施設は①オーテピア（新図書館等複合施設）②高知城歴史博物館③高知市文化プラザ「かるぽーと」④高知よさこい情報交流館の4施設である。これらの施設は、多世代が利用する施設、観光客が訪れる施設、何度でも訪れたい施設等、来街者が中心市街地の多彩な魅力を楽しむことができる施設であり、観光・歴史・文化・教育等の各分野に渡っていることから、目標指標の測定対象として適切であると考えられる。



1) 基準値の設定

- ・ 基準値は最新実測値（1,159,555人）を用いる。

基準値 平成28年度 1,159,555人

施設名	基準値	基準年
①オーテピア	620,158人	H26
②高知城歴史博物館	10,641人	H26
③かるぽーと	474,698人	H28
④高知よさこい情報交流館	54,058人	H28
合計	1,159,555人	

※オーテピア、高知城歴史博物館は平成28年度は開館していないため、オーテピアは高知県立図書館及び高知市民図書館の平成26年度入館者数合計値、高知城歴史博物館は前身施設である土佐山内家宝物資料館の平成26年度入館者数を基準値とする。

2) 数値目標の設定

積算項目	数値
①オーテピアにおけるソフト事業による増加	+379,842人
②高知城歴史博物館ソフト事業による増加	+189,359人
③芸術文化振興事業, まんがイベント事業による増加	+16,302人
④高知よさこい情報交流館運営事業による増加	+2,942人
合計	+588,445人

3) 数値目標の積算根拠

①オーテピアにおけるソフト事業による増加

オーテピアは老朽化・狭隘化した県立図書館及び高知市民図書館を縣市合築により移転新築するもので、平成30年7月の開館予定で現在整備中である。同施設は、従来の図書館及び点字図書館機能に加え、プラネタリウムを併設した科学館機能も備える。図書館サービスの充実に加え、オーテピア多目的広場を活用したイベント開催や、日曜市・商店街に近接した立地を活かした連携事業に取り組むことにより、回遊性の向上を図り、年間入館者数100万人を目指す。

- ・目標値（H34） 379,842人増加

②高知城歴史博物館ソフト事業による増加

高知城歴史博物館は西南雄藩の一つである土佐藩の歴史資料や大名道具を中心に高知の歴史・文化を紹介する博物館であり、平成29年3月に開館した。

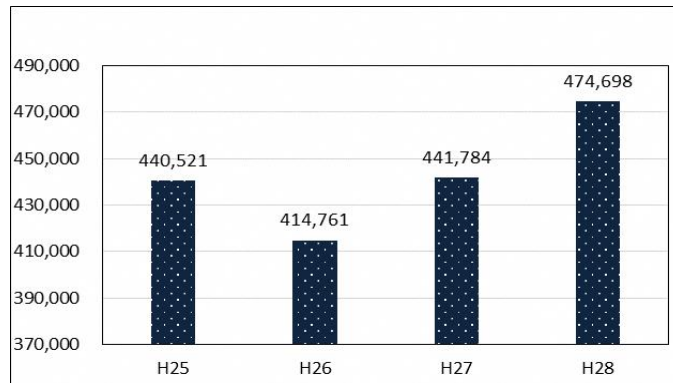
体験型の展示や映像、多彩な企画展・講座のほか、歴史まち歩き講座、外国人や子ども向けのイベント、日曜市の食材を使った料理教室などの取組により、年間入館者数20万人を目指す。

- ・目標値（H34） 189,359人増加

③芸術文化振興事業、まんがイベント事業による増加

市民の文化創造と生涯学習の拠点となる複合施設である高知市文化プラザかるぽーとでは、多彩な芸術文化イベントや夏季大学・市民学校などの学習講座が開催されており、近年の入館者数は45万人前後で推移している。館内の案内表示やパンフレットの多言語化により外国人観光客の来館増加を図るほか、高知文化であるまんが関連のイベントの充実及び近隣商店街と連携した取組を行うなど、新たな活性化策の実施により入館者数491,000人（約3.4%増加）を目指す。

- ・目標値（H34） 16,302人増加



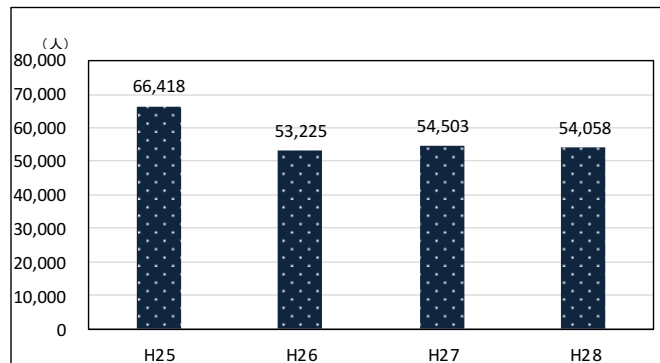
■かるぼーとの入館者数の推移

④高知よさこい情報交流館運営事業による増加

高知よさこい情報交流館は平成25年度に開館した。入館者は開館初年度である平成25年度は6万人を超えたが、以降は5万3千人から5万4千人で推移している。

全国に広まった高知のよさこい祭りの情報発信や祭り期間以外でも演舞披露等を行っており、今後は情報発信機能のさらなる充実、よさこい鳴子作り体験等のワークショップ開催、館内案内の多言語アプリの充実、地元商店街との連携した取組により、外国人観光客を含む中心市街地への来街者増加を図り、入館者数57,000人（約5.4%増加）を目指す。

- ・目標値（H34） 2,942人増加



■高知よさこい情報交流館の入館者数の推移

①～④の効果により588,445人増加すると見込まれる。

以上、①～④の事業実施による効果を基準値に加算すると、

1,159,555人 + 588,445人 = 1,748,000人 となる。

《その他中心市街地内全体の来街・再訪を総合的に促進させる新たな取組》

○外国人観光客の受入おもてなし事業

行政と商店街・民間・学生等と連携し、増加するクルーズ客船等の外国人観光客のまちなか観光拡大に向け、観光案内、多言語マップの配布、サインや表示の多言語化、日本文化を体験できるミニイベントの実施等のほか、学生ボランティアによる情報発信や市内物産品を

活用した観光消費拡大等の新たな取組により、楽しく快適に過ごせる中心市街地づくりを目指し、来街及び再訪を促す。

○中心市街地インバウンド対策事業

商店街と連携し、歴史・観光・文化・商店街・食等の中心市街地の魅力をPRするなど、外国人観光客を中心市街地へ誘客する取組により、インバウンド消費の拡大や商店街の活性化を図る。

○観光案内所整備事業

観光客が多く立ち寄る中心商店街に外国語対応可能な観光案内所を新たに設置し、あわせて看板やパンフレットの多言語化、観光情報の提供等を行うことで外国人観光客の誘客促進を図る。

4) フォローアップの考え方

年間入館者数は、施設管理者から毎年集計値を入手し、目標達成の進捗を確認するとともに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。なお、目標年の令和4年度の数値についても、その結果を踏まえて検証を行うものとする。

<高知市中心市街地活性化基本計画の流れ>

○中心市街地における課題等

課題1

中心市街地の居住人口の減少

課題2

歩行者通行量の偏在化

課題3

国内外からの
来街者への対応

○活性化に向けた基本方針

方針1

日常生活が便利で快適に暮らせる機能の充実

方針2

魅力ある機能をエリア全体に展開し、各機能が連携できるような仕組みをつくる

方針3

来街者の受入態勢の充実

○基本コンセプト

地域資源の魅力が織り成す、
「暮らし」と「交流」の調和したまち

○活性化の目標

目標1

「すべての世代が長く住み続けられるまち」の実現

目標2

「多くの人が回遊するまち」の実現

目標3

「また訪れたいと思うまち」の実現

○目標指標・主要事業

目標指標1

中心市街地の居住人口の割合

- ・（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業
- ・「クリアホームズ高知駅前ザ・レジデンス」整備事業
- ・「ロイヤルガーデンはりまや町」整備事業
- ・「クリアホームズ升形ザ・レジデンス」整備事業
- ・丸ノ内緑地整備事業
- ・移住・定住促進事業

など

目標指標2

歩行者通行量
（参考指標）
エリア別歩行者通行量

- ・オーテピアにおけるソフト事業
- ・高知大丸リニューアル事業
- ・（仮称）帯屋町一丁目地区複合施設整備事業
- ・レンタサイクル事業
- ・空き店舗対策事業
- ・創業支援情報発信事業
- ・高知よさこい情報交流館運営事業

など

目標指標3

拠点施設の入館者数

- ・オーテピアにおけるソフト事業
- ・高知城歴史博物館ソフト事業
- ・芸術文化振興事業
- ・高知よさこい情報交流館運営事業
- ・外国人観光客の受入おもてなし事業
- ・観光案内所整備事業

など